

ほ ほ え み

こども病院のまわりの桜や菜の花は今が満開です。毎年のこととはいえ満開の桜には感動し、心が和みます。

きょう4月8日はお釈迦様の誕生日です。瀬戸内寂聴さんの説法によれば『世の中花も木も石も雑草も全部必要だからそこにある。夏に雑草が生い茂れば雨が降らない日が続いても土は水分を保ち木を守る。枯れれば肥やしになる。石だって小さければ玉砂利になり、大きければ石段にもなる。ものは言わなくともそこに存在するだけで人に役立ち、慰め、力づける。同じ事は人間にもいえる。何にも役に立たないでこの世にいるはずはない。そこに存在するだけで周りを明るくしたり、和ませたり、何かに役に立ち、誰かを幸せにする。子どもも大人も一人一人に役がある。お釈迦様は生まれてすぐに天と地を指さし「天上天下唯我独尊」とおっしゃった。「天にも地にもかけがいのない我が命は唯一なり。尊いかな」私たち一人一人は全宇宙の中でかけがいのない「命」を一人ずつ頂いて生きている。この世に無駄な命は一つもない。無駄なことはない。』と。

満開の桜の美しさ、存在感に改めて人の命の大切さ、意味を教えられます。

< 第70回 ほほえみの会 >
中村先生をはじめ5人が集まりました。

4月に私立の小学校入学。身長が100センチないので毎日送り迎え。今後が不安。早速健康調査票がきたがどこまで書いて良いのか判らない。

養護の先生と担任の先生には病気のことをしっかり説明をしておいた方がいいという話がでました。

また予防接種についてはツベルクリンはOKだがBCGは止めた方がいいとのことです。

その他、小学校5年生の子にいつどのようなタイミングで告知をしたら良いか という話題もでました。

中3の患児から先生宛の手紙が来て公開して良いとのことですので抜粋します。

『お久しぶりです。僕ももう今年受験生です。病院にいた頃の毎日が懐かしくさえ思います。今では先生方のお陰でとても元気になりました。(中略) 近頃僕らの学校でも「死ね」とか「死にてえ」という言葉を簡単に使います。僕はそんな言葉が本当に嫌いです。これは堀越先生や三間屋先生を中心とし、いろいろな人が助けてくれた命です。何より親から授かった素晴らしい命です。それなのに命の重みを知らない者達から「死ね」とか言われたくありません。もちろん僕がいじめにあっているわけではありません。でも当たり前のようにその言葉を使ってしまう人がいるからこそ恐ろしいのです。僕はこんな所にも目を当てて生きていきたいです。(中略)

まあとにかく僕はこども病院に入らなければ命の大切さは学べなかった。本当によい体験をさせて頂きました。苦しかったけどだからこそ学ぶことができました。(中略)

最後にまだ入院している子どもに言います。いつか必ず元気になれる！先生方を信じて！命の大切さを学んで！病院で流したその涙の分だけ人を助けてあげて！そして自分の周りにいるみんなに感謝して！病院はいやなところかもしれないけど多くの思い出と友達ができる！みんな頑張ってください。先生方も大変ですがこれからも多くの命を助けてあげてください。静岡県のたった一人のただの中学生の言葉ですが先生方、子どもたちの大きな励みになればと思います。では夏休み頃に、最後の検査に伺いますのでその時はよろしくお願いします』

今回は 5月13日(日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一